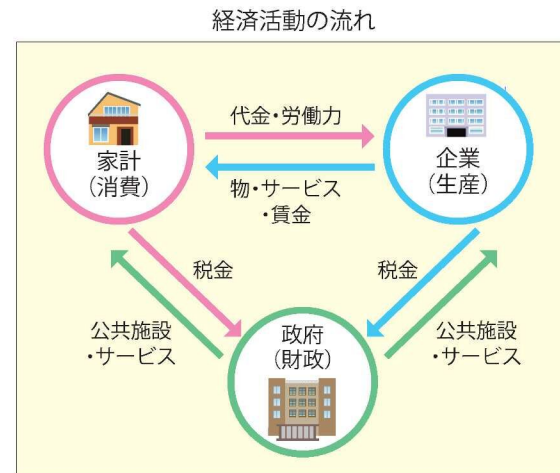


40. 企業の役割と社会的責任

名張市には大小さまざまな企業があり、その中には創業して100年を越える長寿企業が約50社あります。大きな工場を持つメーカーだけでなく、コンビニエンスストアや理髪店など、さまざまな商店も企業に含まれ、私たちの暮らしを豊かにするためにたくさんの人が働いています。企業が発展するとその地域が成長し、より暮らしやすい世の中になっていきます。

1. 企業の役割

私たちは家計におさまる範囲の中で、食べるもの、着るもの、学校で使うもの、楽しみのためのものなどたくさんのものを選択しながら、消費して生活しています。これらの生活に必要なものを生産する場が企業で、生産者はそれぞれの得意分野に専念し、さまざまな仕事に分業することで生産性を向上させています。また、高い専門性を活かして、消費者の新しいニーズにこたえる製品やサービスの開発に取り組んでいる企業もあります。このように、企業は私たちの暮らしを豊かにするために必要なものをつくり出しています。



企業は、従業員に収入を得る場所と働く場、そして生きがいややりがいを与えています。また、消費者に必要な製品やサービスを提供しています。その他にも企業は税金を負担し、国家や地方公共団体の費用の一部を担っています。さらに近年、自然環境保護や地域の伝統文化活動の支援など、企業の社会的責任（CSR）が問われるようになっており、企業は社会全体のものであるという考え方が広がっています。

このように、社会の仕組みの中で企業は社会を構成する一員として、大きな役割を担っています。

2. 企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility)

企業の社会的責任（CSR活動）とは、収益を上げて、税金を納めることもそうですが、雇用を守り、従業員に安定した生活を保障すること、製品やサービスの安全性や品質に責任を持つことも含まれます。また、地域のことを考え、省エネ、省資源での活動、CO₂や廃棄物の削減、リサイクルやリユースといった環境問題への対応、メセナと呼ばれる文化・芸術活動の支援、募金や清掃活動、学校教育の支援などに取り組むことも企業の社会的責任といえます。

名張市内にも企業のCSR活動として、環境保護やリサイクル促進、地域団体への寄付や協賛、学校の環境整備など地域貢献に取り組んでいる企業がたくさんあります。また、グループで社会奉仕などの活動に取り組んでいる事業主もいます。

3. 障がい者雇用の取り組み

1990（平成2）年ごろ、西原町で自動車の内装品などを製造しているブリヂストンケミテック株式会社が、全国にあるグループ会社の中で、一番早く障がい者雇用の取り組みを始めました。当時の社長の「やり始めたことは、最後まであきらめずにやろう。」という理念のもと継続して取り組みました。



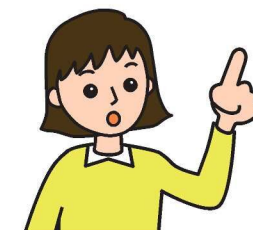
仕事の様子

会社には、「障害者雇用促進法（障害者の雇用の促進等に関する法律）」において、その雇用する労働者に占める身体障がい者・知的障がい者の割合を一定に満たす義務があります。しかし、ブリヂストンは、それに関わらず、入社を希望する人に対して前向きに採用をしていきました。

最初はうまくいかなくても、本人たちの希望を重視し「どんな仕事をしたいのか」「自分の得意なことや自信のあることは何か」など、思いを聞きながら、一人ひとりに合わせて仕事づくりを進めました。会社では互いに理解しようとすることで、指示通りの作業を丁寧に、的確に取り組むというよさを発揮し、やりがいをもって働くことができる職場をつくりあげました。また、そのような熱心な働きぶりを見て、他の従業員たちも、さらによい製品を作ろうと意欲的に仕事に取り組むなど、職場の雰囲気が良くなっていきました。

その他にも、夏見にあるトレーディングカードや楽器の販売をしているネクスト・ワンも企業間の講演会や研修会で、実際に障がい者雇用をしている企業の話聞き、雇用に取り組み始めました。採用の際には、カードを扱うことが好きな人を採用したり、採用した人が働きやすいように、丁寧に環境整備をしていきました。

名張市やハローワーク（公共職業安定所）、名張商工会議所などは「障がい者採用面接会」を開催し、採用を支援しています。この面接会は障がいのある人と会社の事業主が集まり、就労に関する情報交換を行い、会社の事業内容と適性に合った仕事を見つけることのできる場となっています。障害のある人を採用した企業では、他の従業員との協働により、やる気や優しさが増してきています。今後も企業が成長するために、障がい者雇用について前向きに取り組むを進めていくことが必要です。



身近な企業（会社やお店）は、どのように地域に貢献しているか調べてみよう。

4. キャリア教育への支援

企業のCSR活動として、キャリア教育への支援があります。小学校の職場見学や中学校の「働く人から学ぶ会（職業講話）」、「職場体験学習」や高等学校での「インターンシップ」などにも積極的に協力している企業が数多くあります。地域が一体となってキャリア教育を進めることで、若い人たちが地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさや大切さ、企業の重要性を発見することができます。このことは、地元に対する愛着や誇りを持つことなど、次世代を担う人材育成につながっています。



職場見学

【小学校】

地域探検
職場見学

【中学校】

職業講話
職場体験学習

【高等学校】

インターンシップ
等

「職場体験学習」とは、中学生が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実



働く人から学ぶ会（職業講話）

について体験したり、働く人々と接したりする学習活動です。名張市では、2002（平成14）年より、市内5中学校で「職場体験学習」を行ってきました。実際の職場で仕事を体験し、学校では学べないことを体得したり、将来の生き方についても考え、自分の可能性を発見したりするための機会として、多くの企業が協力しています。

5. 働くことの意味

みなさんは「職場体験学習」や「働く人から学ぶ会（職業講話）」の中から、働くことの意味や目的を学ぶことができたのではないのでしょうか。活動を終えた今、自分を振り返ることで、将来働くために、学校での学習が社会でなぜ必要なのか、どのように役立つのかを考えることが大切です。そして、夢や目標を持ちながら「将来の自分」について真剣に考え、たくさんの人と関わりながら「今の自分」を日々成長させていくことが大切ではないのでしょうか。

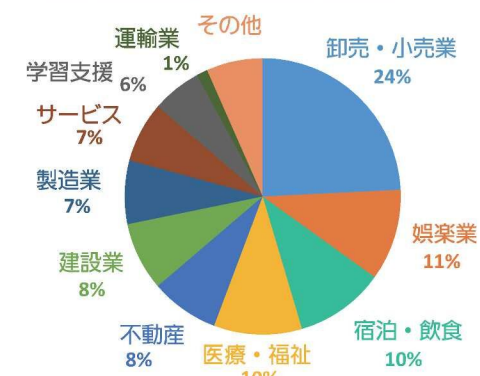
みなさんが働くようになる頃、今ある仕事の半分以上が、今はまだ存在しない新しい仕事に替わっているといわれています。私たちの生きる社会が目まぐるしく変化中、その変化に対応していくことが求められています。また、名張市だけでなく、社会全体の課題として、後継者や従業員不足で悩む企業が多くあります。若い人たちが名張で学び、名張で働き、名張の企業を担っていく、そのような仕組みづくりも大きな課題です。



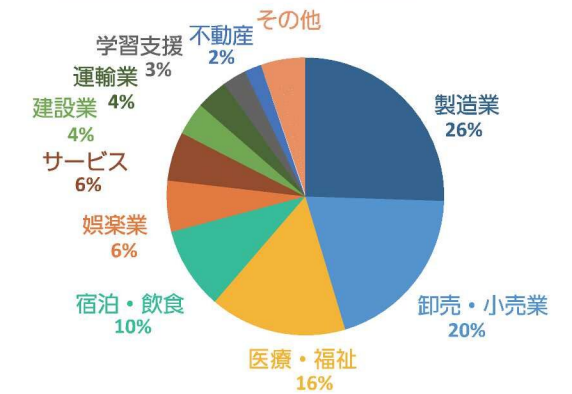
職場体験の様子

名張市の事業所数及び従業員数

■ 事業所数の割合（平成28年）



■ 従業員数の割合（平成28年）



■ 卸売・小売業の推移



■ 製造業の推移



■ 企業総数の推移



■ 事業所数 ■ 従業員数

名張の統計資料2022（令和4）年より

- ・グラフからわかることをまとめてみましょう。
- ・あなたの得意なことをいかせる職業を考えてみましょう。



企業を支える商工会議所



商工会議所とは、地域と企業の健全な発展と市民の幸福のために、それらの活動を支援する地域を代表する経済団体です。さまざまな企業の発展をサポートする他に、地域行事の手助けや企業の社会貢献などを勧めています。

大企業も中小企業も、みんなが力を合わせてまちを住みよく、働きやすいところにするのが商工会議所の願いです。